

小精廬日誌

昭和九年一月以降

特別

14

1919
617

35

40

45

50

小精舎日記

昭和九年一月以降

甲戌元旦

例の如く好天氣ありてあまの晴かぎり、拂曉うじ
 夫族送りをして松江に於ける出雲大社の祓事
 を中継床迄と来た。既して各地の寺の初音
 鳴きも到り、房舎の松を奉け七十七寺
 を巡り各地の賀喜例の如く堆積ある賀喜
 を獲り既して新年也十一時迄を待たぬ

の観音を寒しき日に酒飲してゆくと、酒後
無聊ラじ才の嬉楽放逸を聴き時を移す
内子本年二十九才より早く未つて五十年日
と云ふ、男四十五日身未だ輝き、女三十五
日身未だ輝き、手等々如く未だ死すまじき歎
二日
昨日の如く寒し、感冒未愈へさると輕し、今朝
解と云ふ、午後の飯地を食す、無聊な地くまを食
を此の市況を見二三粒地を結ぶ、元十三日入り

棟原製

洋分を喫り、物一、物も次第を讀書の時を移す
賀景續も到る、冷と云ふ、臥向す、七、八、九、十、
一、成算、家犬六、界、向、稀氣満り、七、八、九、十、皆分
々々歎

三日

元始祭

町内の歳歳早々と云、園にあり、春を多、揮
毫時を移す、甚佳、中、極、多、お、こ、カ、ン、到
来、十一時、侍、人、び、外、出、新、宿、の、旅、宿、を、見
七、十、三、日、酒、飲、して、切、り、つ、ゆ、も、終、り、神

其毛向ら候志、今迄臥寝後睡代を得し後志
夜半に列り。

四日

所、田中光顯伯より西山宗因臨日記複製本
所、八景亭未見、望海坂下義奉録を送本し
来り、土田より五十年の収獲米のつき未書略を送
り来り、明後方、北海行を考し、旅舎、坊内、内
井上、右状を身かす、田中仙く、海志を身かす、十一
時、是日、何白米、石、物を贈り、海兵衛に

榎原製

酒飲し、帰る、所も、後、新刊書と後志、喜
代、四月、十日、並つ、今夜、熟睡を得す、厚十、後
書十二時、停電のため、後書と病す

五日

晴、相来、旅、所と、華下、午後、傳、ん、び、散、来、マ、ん
ビル、市、山、房、も、所、少、く、小、川、飯、天、津、江、シ、工、ビ、ー、ス、の
ア、ロ、シ、ア、日、本、速、報、記、と、勝、心、又、お、み、の、文、の、む
を、所、の、と、勝、心、若、の、島、向、ら、中、に、進、つ、る、者、也
兼、ね、よ、ら、後、新、表、と、得、七、物、く、ら、又、旅、所

と著す。城後浦根田方笠上原六郎を来
書す。

六日

晴今朝高千穂の寺らへ入るに至り城及
人及町集まきしゆらりきおちりて而も
義一は如狀も附て十時と証書とて入
ひ板橋りて及く是日申すは
驛に到るに十二時()と申すは
之の公をへしと申すはトも橋り十時

様原製

十二時五分は時洗車に掛りて
くはりてぬりし竹の葉味漸く快と
二時五分は海に着く直らぬと
極多全いふと申すは
一時大いなるきあつと快と申す
この証書に井上辰次りし
の世判隠し書を
て其の節の一二日の子を
りて其の為め由縁なる
其におろきおちりし

のお札をゆみのり丹功とゆ〜と書き、龍宮に
向ふべきに一本のききえ、橋つて漸くあまをゆ
り、呪の中りえと書き、海分く消息を別
す、呪の収寝前井上と余の家：對の十二時以
上後矣、持入膳ふり、白鷹一瓶、おた〜

七〇

日

昨より熱海例年のこと〜清涼出初式あり
警鐘あり〜朝七種粥を食ふ、雑炊
を養生す、何ゆ〜使未〜十一時止由良

種原表

こ招へんえと書き、坊に午の時の消息を〜二
時止む、泉談し七由〜先五時半の汽車
あり、福島の全に〜就く、予風、野の〜
賑大由〜一遊り入浴を癒せ〜家
々、お如めと浴す、先書る後亦、雑炊と兼
し時と移す、六時獨り先書る寐寢を感
す、忽ち東京〜宿法あり、長末〜人死云と
抄り葬式九〇と書き、ゆりの福京と書き
就寝前井上予の家と預い未〜三十分〜
預〜おぬ、寝後讀出

八日

昨早朝起床、旭海不似合の寒氣を感ず、
朝衣の後、袴を履き、靴を履き、市中
に散策、古刹のあり、世文の粟節のあり、
を獲、心遣生四七中の余を記す、
玩賞、心遣、
了、道邊のあり、
速く、
既す、
駉歌、

櫻原製

す、
上の五七の遺、
昔、
既、

九日

昨、
り、
今、
清、

を考す、此の書を著し、時を移す、筆に任み、金子馬流と露木に記す、今刻の序と在るも、海舟を敬、柔も悦び、此の道達、百病、軽快、午後初めにお出余の旅、君を以て、自れ心の竹の杯、洗を、賜らる、内園におお、押、亮の酒、裏、得、古、出、の、四、全、あ、り、二、時、を、飯、流、し、て、あ、つ、夕、刻、雪、の、く、山、々、白、斑、々、なり

十二日

吃拂、晚、夢、さ、め、を、夢、中、に、後、去、起、来、湯、に

い、り、朝、の、心、後、夢、を、著、す、身、の、心、も、小、色、未、だ、元、に、書、物、を、見、す、数、景、葉、の、圓、言、を、辨、る、物、に、十、後、休、息、一、回、し、在、り、名、壽、の、心、も、此、夜、来、り、余、の、心、も、来、り、あ、時、治、し、七、去、り、

十三日

昨、今、朝、弱、く、寒、氣、を、受、け、五、時、目、を、さ、す、中、書、を、後、み、七、時、起、床、入、浴、朝、の、心、後、夢、を、著、す、竹、の、心、一、の、心、を、記、す、記、す、ゆ、え

又之より引越りぬ後とせし、時々の
に引り午なるに候ふと多し故す、と候
由の今におえぬ時往後必おのれを
す、四朝するを七午とせし、下田港に
介つと決し、その午配を、こい候と候

十四日

日

候、今朝下田に赴かん為り早起往東生田七
郎の来つと待つ、七時三十分生田来り、乃ち
若す、下田と十六里往復三十二里六時迄

標原製

二軌は、地着を効す、伊東迄六里北間の
沿道當て往來することあり、伊東下田間の十
里今吹初めと往來す也伊東より下田迄の
道路、其事業未だ敷海のり、とて二年間
を費し、心り家、自ら自動車と馳つに
す、熱海を走る十里日、と熱川と其
り、其の室海す也、以余の熱海の宿、
こ、支店を、其車中、通、
其、
七道路の開通、

二村より漁村不似合の家は多きを認む北を
乾天と心く海を産すこん入る村民皆
富志と自動車 長江曲浦を走り車中の
人々朝霞海を駈凡五七波平かき海を
泳め七時の打運を指針し三時分
一息七時分十一時じり下回に達す北港へ
伊豆の有力著名のしもの市街段賑港は山
に圍まんと湾曲の海二三の島あり風波
を添く亦一川市街に海を流る運輸に
便す幕府が北地は外船を引入んが七代

棟原製

又北地は北地の名物と曰く米田の領事館
曰く日米條約の談判不曰く米田松陰の潜
伏所と而して之れを轉つ地の名物と曰く
商人おまのち是れ予等先づ玉泉寺に
利の此寺にも幕府が後々米田領事館
と云ふ遺跡ありて日本に於ける日米初
の外回領事館とす寺は終信を託せん
とも無念を保ちて貧弱なる曹洞宗の寺
院なり之れを領事館とて之れを任職
し佛を奉るに附近の家は退却し四年の後

米領寺。去つの日、住持の寺を清めて初めと
まふ、寺の入り口、ハリス等の首像あり、行
きの遺品あり、ありの文献あり、寺傳の限を
くまゆい、ハリスの寢室の垣ありし一室、
道守き入る、戸をつまけ、ふちき、家、四五の
横長あり、ハリス一行の死を告ぐを築り、
このより、こゝに米領寺の女を擁して眠
り牛肉を屠つて、寺に金、蹂躪せん、
と、ある存あり、寺の住職の思惑も、
と、ある、寺前、紀念碑あり、表面洋文

榎原製

と刻し、重宝あり、滋野子音の文を刻す、亦、
牛供、美山の碑あり、楠橋士の文を刻す、
龍、及び去つて、仙寺を、当時、外交談判を
ふるき、寺も、蓮宗あり、前者の寺、比、
規模大、下田奉行の墓も、北境内、在り、北寺
あり、武山、あり、寶物の陳列所、
と、外交談判に、関する、紀念品の外、
数多の、佛像、石、等、を、
佛像、中、り、
價値あり、少、か、
鈴木、某、が、
一切を、寺に

宗師の号と云ふ、亦境内に紀念館と云ふ一宇
あり、入つて見ると唐人おまの一代記を畫して
三十数枚掲げあり、供衆の唱米を傳する
やうな風せん此の寺の獲珍手札と一足
す、此寺に法眼生蓮の関する器具あり、こ
の器は木製の梵書集、こころと云ふ、此年以
或る部分と公開せし、か今に教を委ると禁
せん一見を得たりし、一為の後去つてま田松院
が米艘に投せんとして漸次一比不と係ある并天
此を見、自動車を廻り西蓮甚の寺村に到

横濱製

このころま田松院の遺蹟あり、杉陰 寺成の十景
家入杉陰清在とて戒癡を醫するがえ入浴
の事あり、向し、家の前より杉陰遺蹟の
碑あり、時辰二十時を過せん、石橋と云ふ
施設と就て飲食す、二時半自動車に従
して悔途に就く、往跡と申しけん、再設て
す、豫定の六時熱海へ着有、生田、酒飲
を喫らして別る、家院に接す

十五日

ふと頼み入の、度井の長男重次、二箇と書
す、大谷惣兵衛の郵書と為す、午後二三枚
宛封を筆す、長正を改口献す、未書、新
島田右衛門、右籍入の色と為す。

十九日

所、小鷹守元凱の卧列、及口献す、新島と云
東度井の死、つき後任社中遺言を、其嫡子
重次を推す、決し、と報す、高橋右近衛
忠義守の決意、計書、つき未決、横矢重

ん、も、近衛公紀念、婦、授、給、と、要、求、し、未
く、宛、封、を、筆、す、朝、来、御、書、を、及、申、す、
而、して、雜、談、を、筆、す、時、と、抄、す、

二十日

朝、朝、来、宛、封、を、筆、す、今、田、右、衛、門、原、右、衛、門、坂、上、松、尾
の、注、射、を、筆、す、宛、封、を、筆、す、鳥、田、某、某、宛、封、
雜、談、翻、談、二、時、と、抄、す、午後、二、時、又、申、の、右、衛、門、
リ、小、鷹、守、元、凱、の、朱、丸、式、の、跡、を、内、次、文、の、筆、を、主
寄、の、朝、来、北、條、右、衛、門、宛、封、を、筆、す、及、申、す、度、井、進

懐の文を筆し一筆成る。

二十一日

頃、大宮入、村山秋浦、丹波山陽書指の題、匣も托
七、山名波書、店も、難法教冊、利未、三十日、紅毛紙
に、枚付け、時分、う、裏内、松木、御も、来、之、長井、の、近
憶、記、を、筆、す、竹、内、喜、方、り、も、も、紙、前、の、又、ら
ハ、解、り、を、賜、り、来、り、能、く、切、上、り、も、も、カ、ラ、ス、と
寄、せ、其、の、川、上、法、石、岩、波、之、店、投、簡、塩、澤
昌、貞、妻、死、云

棟原製

二十二日

頃、長井の追悼文を授、七北城、以、散、し
之、の、う、安、田、善、次、中、り、も、も、香、奠、立、し、り、友、物
到、る。宇、尾、中、津、も、山、島、四、羽、利、未、頼
時、彦、長、一、巻、法、漢、成、り、平、中、登、美、人
才、の、活、道、を、述、い、ぬ、種、冊、二、枚、表、法、を、表、り、る、と、托
去、字、尾、中、津、の、代、解、紙、を、送、り、塩、澤、御、ら、り、と、
人、を、考、し、七、香、典、十、四、題、り、二、時、教、策、并、心、高
時、海、列、の、若、田、人、形、を、説、治、生、の、托、を、贈、り
七、御、ら、り、志、木、津、打、尾、島、の、以、り、と、辭、任、二、三

時中央公論社より代筆松十郎刊行し、
田垣島士論と渾身一して海木直一方、
老く吐字の影の標記も併せ老く、
和田此二一尚と投す、北城の報支向の四時
東天の礼に来る、閑と棄して鶏助報名人を
整理す、中洋無次郎の農村經濟論の論議
を漢文時を待す、

二十六日

時宇都宮県を去る、難波家の志し、二月

棟原製

投箱の紙十由利未今朝刊行の北城の報
予不度井天志と悼志の文一書を掲ぐ、乾
紙を著す、森服美樹子法大、公明心よ
り其書、午後予に傳ひて、散策北城の物
を題して、ゆゑ、竹内を道と一尚と寄す、

二十七日

時、早く目さめと亭中、お島海風の過年を談
去、度井死後、北城以降、閑し閑を、
の上條盛雄、随筆、雑誌を創刊せん、

予の寄札も廿と云、龜山東三川路感を深む
入の御子も持て来り希す、午酒暖と云り候後
旅書も渡り、早大出陣部も、西野武家義
現拍塘(輪澤)を送り来り、二月三日安田邸書
証有今の通牒判の

二十八日

日

時、廣井一婦男廣次来訪、湯之坂に獻を許し
才ある、北城は後、今後院を流し十兩の
拉し七祿も取、田原屋、午飯を先りし二時

榎原製

別、鯛魚川海邊、冬、元此次、予信を廣井
と云、今の事、人今、母のこゝと来り、午飯罷
御も書、今、廣大、一、投前、何、何、遠、遠、よ
り来書、大改、サ、ン、デー、毎、の、と、来、り、古、中、公、武、死
去、

二十九日

時、榎木直一山田、信、植、田、今、定、こ、ま、梅
山の、榎、物、今、本、配、本、植、田、山、湯、の、寺、梅、の
鑑、定、を、海、の、村、山、秋、海、の、以、今、各、刺、を、具、云

晴、候の鐘道々々未嘗、梵堂を修治と清和
天皇馬込坊の法塔うつと、祝物を贈り、日本新
船今代とし三千番日記、信長集のつき来を
散策、口を指し物を贈り、午酒と飲み
酒飲、酒を兼す、山田清光、言平の書
類を頼む、此の精肉を下物とす

〇 二月

一日

晴、中津家一、大石理因村山駒、助其以

極原製

宗大、大科、至天尾、昇、三、梅、力、時、於、法、を、交
り、去、の、終、大、和、某、(未、り、人)、(と、余、の、代、終
録、より、き、来、前、午、後、於、法、を、兼、す、午
前、九、時、以、や、津、列、の、地、震、を、感、す、五、時、永、集
都、從、來、都、に、到、り、金、子、馬、込、坊、子、の、法、塔、の、家
二、路、の、席、上、祝、詞、を、陳、ぶ、因、丁、二、人、來、り、

二日

曇、坂上弘花、了、了、注射を施す、不久、江、外、一
上、條、盛、五、確、多、指、村、山、秋、滿、依、野、の、ま、る、

杏坪の福幅の運向に是より旋縁を兼す。昆
田強宗に九日の卒、松園、根も。冊共、堀平
来訪、多日九日、を初めて、因も其他を
輝あて、ゆへ、お向あり、亦旋縁を兼す。一
ソンの神も、この道、の禪書と漢又夜に入

二日
昨夜雪あり、今朝雪入り、三四寸積り、松に
来春、風合、あり、の風、向り、い、き、来、ゆ、中央、公、論、此、
一、は、終、河、前、全集、才、五、回、二、冊、配、本、二月、十一、日

横原製

近衛安山公比、公、今、年、京都、清、院、出、初、式
ある、由、列、し、午後、一時、出、由、善、法、中、を、ゆ、あり、し
法、法、之、合、し、論、也、此、利、回、方、を、論、論、して
四、時、半、辭、し、し、ゆ、へ、今、秋、公、命、し、あり、家
人、福、内、の、五、を、撤、く

四日

日

時、来、家、三、と、来、書、多、多、前、中、外、出、給、也、伊
東、尾、し、所、と、婚、心、下、谷、又、り、也、と、ゆ、い、風
月、也、一、致、し、し、ゆ、へ、旋、縁、と、兼、す、金、子

新云の御祝に奉る書函を填録地と爲せしむ
つとあるの取立現をさし時を移す。

五日

時、度井重以関大りしと奉る、海内より奉る功、
小久江成一送し奉る、小前曾量數十紙を出し
ての送正午に奉る、由記と申三、小包
をよき本國不講(異時)二冊の中にも奉る
貝も一説を奉る、つき、秋後にも奉る
り申、柿と送し奉る、午後閑を以て回書を

標原製

整理す、御田茶末の計を傳ふ、日本國者候
揚今、未前九の今井貫一出奉る、つき、おまを
候す、き、奉る。

六日

時、朝来旅帳を奉る、森脇今務のつき、奉
流、前月分銀の利子二十兩、交付、込役所
に税吏列、前月納ありと、四税三ろ六十四
に流す、高崎尾、人形の陳列目録を奉
せし奉る、四箇、今、前田の今況を報し

来日、飯後石井安大守、大石院、田中正平
と来書、五時紅糸錦、利り睦合、臨志。

七日

明、朝未夜帳を筆す。内記中、
大改毎日、暮部、余の隨筆、
め、猪肉と煮、午時杯を奉ぐ、
出ぬ、えり、を、と、
逸難び、辛、
の、

棟原製

八日

明、朝未夜帳を筆す。山田清心、
も、
書、
大隈、
新油の、

九日

明、尊氏論、
甚、

お綴り物糸高橋の場合を決し廿三日重役一白の
合と可く下申を決す。紙商榷原中村直次郎
と取り玉紙集を貯り来り。坊内道尾延延冊
二枚合巻の幅志紙成り。大石現田直次郎、五時
卯辛松園の昆田の招き、之し行く中坐し七
幸樂の因方飯の合、大坂の合井貫一
を所へて寝合と興うす。

十日

時朝来迄兼施法と寄す人々、原村と心

榊原製

鮮人趙炳傑、来泊押其毛と古と云、改口
献克寿城人々、つき未泊、里田正保山
陽の幅を扱く、鏡宅を治り、上野喜心
次子記、昆田宛平、と来尚、多賀野生
敷束物を猪あを治り、中村直次郎、福
言のと考す、喜命山治守、段、妻の母廿
五年忌後行別、郵送。

十一日

北元節達回祭

時七時迄地倉のり、相来大坂毎、と寄す人々

昔も苦心の中深象一弟九萬八と曰存其功
とふにえ即之際し皇太子御誕生共文親の為
大赦令を出り大坂毎の并に上條盛雄に
百石を賞方(是)の御禮(也)より自家の徳を
載せし能法と云ふ事あり。因て二人庭樹に肥
を施す為事あり。上野野郎の為御禮(也)服部
耕平に投簡村山亀齡に梨果一函を寄
せり。敷東北生の市況をえてゆく。今
夜近衛守山公の記念令と此を念ふ事
あり。と云ふ事あり。

榎原製

十二日

晴、村山亀齡に未書、改上野野郎の御射を施
す。服部耕平も亦南義二印依頼の印三顆
を刻し托す。午時市況を捉え、紫の
酒海訪成二報を授く。妻代四方佛事
之因をす。西彼田寺飯長三田徳義に未書
村山名子に「家」字の子クタイ、ピコを字に
未、三帳に西洋面取の人形雛繪集を
寄せし事あり。村山亀齡に海ををる事あり
中し和同第吉に尺あり杖をわたり、

十三日

時、坂口截を以て中央公論社より余の印税を以て来
書、日本圖書館協会の三月五日の函に依り余の通牒
あり、嘗て内子病む、旅費を兼て時を移
す、川崎才右衛門の江戸川支店長山本義章
亦ゆ、天尾昇隆を未届、廣井重次郎、江崎社
長就任の挨拶状有り、股部耕石、本名信目、津本
一冊を打書す、喜代四角、又医河来、今津八一
も柵の修築の事来出、マーソンの来り、この
道へと渡り、

横原製

十四日

時、八時甲分日、中央公論社より代解録五
千部印税一冊、田由金を以て并、五十四部、輸入代金
差引四百五十円と送金し来り、日本圖書
館協会の外雜信を振り、支行書と訪り、三四の
圖書を購ひ、幼童の由り、四十冊、旅費を
後、時七時、初日、若き来出、雜報を
兼、一、時刻を以て、大谷昭正の夕、柳橋を以て
二招り

十五日

時、柳里恭介、折吉、相思一帖を購ふ、價三十圓也。
折吉と筆す、午後三時、永樂、從生、部、く文
明、場合の例、今をひらき、津、時、狀、緒、官の、津、浪
を、聴く、夕、刺、大、男、吸、心、く、折、え、ん、處、清、の、安
今、と、赴く、阪、に、献、吉、く、公、物、を、買、も、す、

十六日

時、阪、に、献、吉、く、公、物、の、日、春、城、心、の、次、才、を、報
す、金、百、圓、の、り、の、福、引、料、を、充、つ、て、と、て、寄、付

棟原製

先、日、付、銀、幣、の、物、を、難、ひ、情、交、の、酒、飲、し、七、物
一、つ、午後、高、津、局、の、人、形、屋、見、合、を、修、列、す
家、老、の、人、形、と、十七、帖、店、の、並、控、の、時、を
買、す、と、して、無、子、の、寄、付、納、付

十七日

時、と、余、の、七、十、五、圓、の、飛、辰、の、す、す、朝、来、の、戻、り
来、り、既、に、類、と、整理、し、時、と、あ、り、ま、し、旅、船、を、筆、し
七、時、を、移、す、ま、日、清、生、命、の、と、配、而、を、判、る、
松、心、と、人、仙、の、金、裁、を、孫、の、五、時、寄、付、志、日、辰、の、春

似合と略し、才多今十九名、予一應の挨拶、酒を飲
み酒向福引の品を領り、吉田東洋、画を贈り、未
の上、甲然、短く、月書、

十八日

日

晴、上の曇り、次第、酒の氣味、酒を思
ふ、支を伴ひ、酒の三福、酒を飲み、酒を
廻り、物を贈り、吉田和男、未書、白
耳、萬皇、帝、登山中、鯉、山、湖、の、野、出
づ、長本、影、漢、八、輯、九、輯、配、本

種原製

十九日

晴、風、亀山、兼、三、中、津、家、二、東、流、相、来、遊、玩
を、兼、り、亀山、三、柳、里、茶、代、二、十五、日、柳、河、上、條、盛
雄、と、未、書、文、三、未、二、午後、出、遊、杉、坂、合、又
行、堂、を、訪、り、て、ゆ、く、政、友、今、日、内、給、古、く、同、士
打、や、ら、陰、名、女、子、戲、態、百、出、即、月、圭、介、筆、頭、縁、路、の
友、任、と、一、七、派、久、を、稱、す、う、む、つ、れ、政、堂、の、美、と
雪、く、ど、こ、ろ、か、ま、ま、政、堂、一、お、ま、お、難、を、激、是
比

二十日

町伊末代法伯五五、平洋金三〇一、再り原一を
贈る。押書と頼り、旅帳を兼し、心ふこを
り、早大出版部より、前田昆の七年四史物語（昭和
時代後記、明治時代）一冊配奉。大改毎の形を記す
り、海軍十二回到来、高橋大洋より、来書、四
時、安田美次郎と話し、福也、復志、日人、今と臨
む、先物を感し、て、字家、家を訪ふ

二十一日

種原製

町朝来旅帳を兼す、神郡前と兼死
去、このとき、早大、旅帳を兼す、は、福也、人、坂井、は
三、ら、故、休と、若、士、備、を、交、つ、き、来、接、三、城
陸、列、の、先、兵、五、谷、亦、波、遠、を、受、る、の、旅、列、を、見、数
来、時、を、移、し、午、後、一、時、半、の、回、原、居、に、飲、し
て、ゆ、く、り、高、橋、一、師、より、押、書、を、頼、り、了、り、物、を
贈、り、来、る、三、時、五、十分、地、震、を、感、し、閑、に、兼、し
亦、旅、帳、を、兼、す、

二十二日

物志本香家物一巻を贈り来り、伊東三代治政を
二つと先を吊礼の為伊東三郎の巻を、高上某
子抄の巻、午迄区役所と余の心ありて、揮毫に對
し、御志利の月未家自三万圓の予に、文付

廿五日

所、凡在田和男と、未出段上孤花と、注射と、又
く、松井却況を、徳也利の、午後散葉白木
屋に利り、亦下谷の文の、中を、物乞、狩谷
梅高、徳本、度量、格衝、派、早、志、を、疑、ひ、廿

五山、拂、海、河、又、山、司、夫、吹、有、三、散、物、物、次、介
の、給、介、う、し、未、訪、格、松、を、奉、り、し、又、徳、利、の

二十二日

此、指、内、右、瓶、物、の、代、金、十、五、圓、龜、山、拂、海、物、松、
を、奉、り、市、時、鉄、大、了、伊、東、某、莊、に、助、る、未
重、河、又、山、司、の、書、龍、三、某、揚、午、後、散、葉、九
じ、ん、に、物、を、持、入、又、下、谷、に、回、り、文、の、名、を、
つ、て、御、心、市、時、鉄、大、了、に、返、出、を、授、す、又、
家用、四、十、圓、の、内、あり、文、付、五、圓、忠、一、郎、の、
奉、書

田子服部金太郎 濫浮子未亡人 九去内子宿家
・雜壇を飾る 雜書執談時を移る 或句
雨より花燦云しく庭樹の枯死を憂ふ

二日

晴、朝未始候を著す、後、社長高野屋よ
り人形陣列のきぬを列る、安川敬一郎
亀井昭陽の毛詩考を寄る、午後二
時宮崎邸に中、茶儀、跡、香典十日記
ゆき珠琅関、福原録三の蘇油詩不と湯

種原製

ゆき、福也、先月分二冊控を集一紙
本、文三浦、来、二十日交付

三日

今朝六花仙の雪積り候、新入情炳燦と嘯
さん、余の拙、毫四枚交束、雜紙と著す
安川敬一郎、昭陽の亀井昭陽の白葉
影本十冊到達、吉田和男の海之列、甘泉
公論社、余の隨筆、寄稿を、雪あり
、古橋虎と、物を贈り来る、揮毫と交

付、午後二時迄とはせしち山崎場の方面の生必
式、歸り、

四日

日

時、安河敷一丁に河を渡る、龜山寺三の為
め山湯神々の格投の運入、廻る、遊園を
す、小山武と名の格押、毫弁、隠れ、子を遊
午後上野寛永寺の遊園、子未亡人の葬儀、
路、亦、山崎場の腰、金大らの先、お式、
路、亦、山崎場の腰、儀、大規模、つき、中、

棟原製

の自動車、数丁つき、其、近、の、生、必、の、こ、と
と、春、め、の、多、く、の、時、号、と、ま、る、し、四、時、迄、の、遊、園、を
吉田、小、夏、の、母、出、ま、る、つ、き、物、と、遊、園、を、

五日

時、安河敷上、山崎、の、例、の、注射、を、施、す、山、田、川、の
文、未、り、山、湯、神、の、鑑、定、と、ま、る、し、お、ま、る、し、て、履、行、也
神、生、の、物、と、遊、園、を、又、又、の、物、と、遊、園、を、二、三、の、回
吉、田、小、夏、の、母、出、ま、る、つ、き、物、と、遊、園、を、
山、崎、利、久、校、由、り、未、校、神、部、教、三、未、

米、物工木米と改正山田心算的、既に服部耕
石事、南義二印、信託の印三顆奏刀、木林脇美樹
身、英文大日本印刷成、全の日本女性、就しの
文七、此内、あり、冊、英、見、中、旧、有、このとき、母の先
七、已、連、ん、れ、今、母、ハ、一、と、毎、日、の、間、も、不、在
よ、つ、き、久、く、又、さ、る、在、の、美、ん、な、る、處、を、歩、し、
自、動、車、を、起、り、以、知、り、三、福、の、酒、名、を、終、り
して、ぬ、り

九日

東京製

時、中、外、家、一、乳、親、の、件、の、き、事、次、合、津、ハ、一、と、去
前、と、空、を、事、ま、り、物、工、木、米、と、換、り、十、時、の、印、刷、分
社、の、重、段、合、に、臨、む、後、に、献、ま、し、目、了、南、依、囀、の
印、と、交、附、四、十、五、回、更、も、時、を、以、後、此、長、武
蔵、山、次、亮、徒、に、射、さ、ん、市、場、を、受、く、執、事、一、人
即、死、犯、人、自、殺、者、合、を、不、見、地、を、信、託、に、附、す、
件、を、事、中、望、望、美、久、と、托、す、一、切、者、此、回、更、に
預、く、以、修、治、為、合、集、事、六、回、分、二、冊、配、本
あり、鈴木茂雄、委、囀、の、色、紙、三、葉、押、毫、投
郵、服、部、刻、判、為、指、さ、る、世、界、の、餘、り、字、有、す

へきなるが十数枚氏へ

十日

昨米の寄山森返助くともある。早大又種大子で浚る生
小杉一植とて也若、仁壽金利塔の模式に就してを
寄るをある。昨日書き分けの原稿を景し、世界
公論の寄る。寒くゆくや午酒と飲み候
後外す、所得税徴索列に小杉の六若を
讀み、武蔵山沼巻に折く

棟原製

十一日

昨、石井佐二郎才良三子湯、良三と市橋成
一、八才、四確舎の寄る。中より、まゝ高村文
雪田中切り、その序風と散す、又お代々
巻紙二枚押書も交付十一時出候、早
削るの場、田丁目の地を家に入りて居る、
心り梅表一町宛飾りつけあり、まゝの
美観を、外装と似し二三物を嬉々を
つゝ、程原と景す、稀なる家六四、中を、
祝として、ゆと、寄る。節を、ゆと、来る。

両書人の暖氣と云ふ、日本圖書館にありし、今秋
書院を遷付し、其の館を遷す、阪上村の創
の注射を受く、廣井重次、此の父の追悼
を乞ふ、其の午後、由里、此の生かぬ式、
臨出、吉田在任、未亡人、其の娘、其の
又且つ抄し、其の時を費す、又刻々吹着、
其の母の心、其の時を費す、其の友、吉田、
其の母の心、其の時を費す、其の友、吉田、

十五日

棟原製

晴、吉田三子、其の母、其の友、吉田、
未書、資生堂、其の友、吉田、
リ、其の友、吉田、
兼文、其の友、吉田、
酒、其の友、吉田、

十六日

晴、朝来、其の友、吉田、
未、其の友、吉田、
横尾、其の友、吉田、

又、小山武久の父東海卷石の山形指を以て、
垣越美迄翻後旦つ物ね時を費す、又上野田
敬の原務中堂武吉係を譲り、相馬御風へ小指を
雜筆評今朝の東東朝日：登載

二十日

頃村山御へ仰せ、未書、相馬御風：授前且
代解銀郵送、十時市町登美入日休茂会
の在、玉り土地を授合す、此の位托合社：托
せんし、又輪旋を二事候：托夫、合津八
り状を賜ふ、由途、未候と午迄を興

榎原製

乙未の、不王中、垣原の金銀、物と齋
才、御、未書、御、城、市、の、合、手、紙、三、百、公
指を托す、中堂武吉係を譲り、福を譲り且つ
授す、御、城、市、の、合、手、紙、三、百、公

二十一日

春季皇重祭

頃、代、朝、来、武、吉、係、を、譲、り、且、つ、授、す、四、月、一、日、未
河、河、可、示、ホ、テ、ル、に、於、て、故、事、御、利、美、大、の、百、日
祭、候、御、合、の、御、事、御、利、美、大、今、御、八、一、と、未、書
今、御、天、御、と、此、他、を、寄、り、未、書、早、大、と

四月三日 平書式 壘内列の、能程と著し、十時
半を以て文に略し、而も僅し、其の病に及ぶや、
戸より直望あり、亦又江軍一と、押置を依り
たる且物と略し、而も京都の枝友奥村江平來り
お、式清化候と略し、二合に、お母も、午
後十武を依り、原形と讀み、且校了、而も風終
日、松平頼壽伯と、中堅武を依り、傳を、一、則し、亦
六日上望に、時雨月在、其今の、要の、則り

二十二日

時、今朝の、夕、亦、其、函、信、辛、二、萬、戸、校、又、と、報
す、中、洋、象、一、象、の、回、を、既、辛、書、と、報、す、武、堂
傳、の、原、形、と、讀、み、時、と、長、す、亦、望、中、三、生
前、成、實、の、家、を、其、美、國、石、講、の、三、遺、子
二、書、と、略、し、四、時、其、の、表、次、の、一、切、の、
稀、者、復、其、人、の、日、今、と、踏、む、石、割、松、太
印、と、其、若、神、瑞、の、跡、先、と、字、の、也、其、日

二十三日

時、頃、上、の、為、と、注、射、を、受、く、石、川、新、の、加

新石大寺山陽の物奉出を推し替へて
清久、龜山寺に奉りて歸して、海内より
係草を得て、つとむるに注意を促す、
一、山陽の山陽書院の書院を廿とある
美村分務二つを未訪、午後謝を得て、
旅費を兼りし、四時家宅の継志人と
出、姑老今の但儀二つを同議す、
田良平、死云

二十四日

晴、早稲田大寺に九五、
種原製

決業書利未、奥村次郎未接、
才武多休る、
散多、
風、
午後、
幸樂、

二十五日

晴、
相、
橋、
人、
山陽

河の巻端に是字を記す。干後武尊傳の原
稿を讀み且校す。山田清也村山秋浦に投簡
中務徳重の死去、帝國遂に終る。

二十六日

時、滿洲帝國の派恩使鄭孝胥が今朝入都朝
來旅録を著す。亦武尊傳原稿を讀み干後旋
環を考し、王時之移平泊の相集に及ぶ。不谷池
端の丙月を注し、武尊傳の編纂を考後、冬
す。永井拓相の原稿に於て、御流し御書四早尚抄を

種原製

親書中、空布流す。十二三日、月令

二十七日

時、演劇は物語として、寄附者名簿列來、日本美術
協会より押書をもとめ、龜山素三の紙傳
少木の山の横巻、代十の文付、山田清也來る
復も、本館本を多く、石割の祥瑞の研究を
讀む。栗林の物語、皇原、重松、二と細書
利。

三十日

晴、山陽方面の坂を堀り、漢文類を代へて
書問体の一云と心、武芸伝原稿を讀み
且つ校す、二三雜記に據り、古田和男と海書と
あり、中山房より新刊國民百科大辭典第
二巻を寄る、其あり、常林記族の呈原を以て、午
後又武芸傳原稿を讀む。

三十一日

雨、雪後寒甚し、坂本嘉次馬重相他、亦坂

を以て、坂上北村あり例の短射を施す、飯
塚彦次郎、其の思成亮从養碑、建設を以て附
二、山陽海、雜誌食道、山江若降旗後三
即、其の、四月二日の府議會、出席をも
請はれ、此記を早大出身、つぎ議す、午
後二時、林町宗家宅に到り、二三子と繼
志、今の組儀、つぎ協議成ありを得、つぐ
る、其の、坂本、杉川、市、四、あり、其の、つぎ、即
状を以て、又、活字、武、海、中、に、前、す、迄、未
あり

件つき来功、今津ハ一と来方其に書
をせり、森脇美樹来功、先日分り、
二十回交、早大と来書、坂口、
致七、致八と来書、一と無、
致七、致八と来書、一と無、
致七、致八と来書、一と無、

四日

雨霞、今朝光る人、
海く、遠く、行く、
五、四、引、出、す、
継志、今、の、
継志、今、の、
継志、今、の、

種原製

を、草、す、
元、と、
臥、し、て、
臥、し、て、
臥、し、て、

五日

噴、吐、の、
相、来、
と、
信、
存、

物井京次子孫末の郷人直心重宗を以て押交
右需め申す。文三本。前月補給金二千圓交付
三時中。供外也丸ビル。物と贈ひゆ。送。殊。出
改。四。存。心。酒。飯。一。切。三。夜。来。雨。あり

六日

市井京次子孫末の郷人直心重宗を以て押交
右需め申す。文三本。前月補給金二千圓交付
三時中。供外也丸ビル。物と贈ひゆ。送。殊。出
改。四。存。心。酒。飯。一。切。三。夜。来。雨。あり

横原裁

市井京次子孫末の郷人直心重宗を以て押交
右需め申す。文三本。前月補給金二千圓交付
三時中。供外也丸ビル。物と贈ひゆ。送。殊。出
改。四。存。心。酒。飯。一。切。三。夜。来。雨。あり

七日

市井京次子孫末の郷人直心重宗を以て押交
右需め申す。文三本。前月補給金二千圓交付
三時中。供外也丸ビル。物と贈ひゆ。送。殊。出
改。四。存。心。酒。飯。一。切。三。夜。来。雨。あり

字と跡を授えり山陽方面と交付の物と記す
の午頃取来り未だ旅の業一時を移す休養
の大ききと未だ

八日 日

晴朝未だ旅の業と兼り日本国歩破城の十一
日頃此の地士庶の令と云く通陸利の先を以て
て右に取来り三福の酒合と記す

九日

標原製

晴雨夜次を再ゆり家田年譜と指入小
灘平流雲峰遠く所所列のき未だ十時の
法印劍の重後令遊云定奎衣流二も未
書ゆ中後遊のをも兼り立川の休養は
まの所魚いづいと持太、鯉の次帝を
の魚をも往来閑楽と無かりしよるは甲多三摩
川に移遊して初めを獲たるもの也、その味
味よし

十日

昨、市島成一伊東三郎と来書又真治市平と
り月考、龍和と兼し七時を移す、午後散策
文の巻と印の巻と二十回挿入、山東系依の果堤
回極其印と依頼す、松海庵におと贈りし物、
昨日未だ取寄と著す、阪上弘茂と江射を愛
く、母坂回増より宇房中遊去塚彦彦来
訪、午後又の巻を移り二三の圖書と贈
ひ不思湖心の田田(笑福亭)に到り、河考館城令

十一日

榎原製

日人と姉崎山次の歴々のやあをいしく、姉崎
三希大友の授と口露のりも也、亦心松本其榮
大田今津と余也、十一時物書

十二日

昨日、朝来讀書、飯後、と来り居るハ婢、病
を相お、お圓え、と迎へ、来り、田考館城令
宿徳の家所、松市、件、聞し余証人として、凡
昨、六月中、出廷の都合也、兄と伴あり出遊日本
橋甚、兵衛と酒飲、七時、三、雜和と著す、

日本橋其角に主婦と友此矣と扱ふ。日本圖書
館協定し。大令八月十日。是十一〇〇〇のりも印刷
す。

十三日

雨、小井堅三其稿、流を式次郎と未出、平山堂の
高橋利助其稿、二三の書、高橋赴、近、高山の
小畫、二柿在事への水濁と贈る、雅和と葉木
新修、河島全集才七回二冊配本、十後、碎部
小泥と讀む、命公ハム、葉木、微衣と贈る、未出
よふ。

標原製

十四日

雨、高の凡あり、朝来、坤是三、紙、在、印、人、之
需、山田、古、心、其、功、龜山、奉、之、穢、心、之、詩、情、を
持、り、来、り、示、す、今日、高、原、身、海、関、而、旅、り、の、き、
紙、亦、と、云、り、今、井、一、印、在、り、其、功、旅、記、を、兼
す、午後、有、史、考、會、四、人、と、其、の、善、次、郎、を、兼
余、り、中、崎、正、流、と、海、考、利、了、中、浮、家、一、母
其、り、物、を、贈、り、象、一、の、流、形、を、其、仕、の、り、
決、し、海、之、と、云、る、信、と、未、に、始、り、日、の、外、國、ス
誘、本、二、余、の、文、を、扱、り、た、り、つ、き、海、物、と、漢、本

を定めてしむる

十五日

中津敷一と申す者、今井一印申す者、土時
の光と定むる出せ上り、凡日わと致し、上りの
花を親淡者より取り、墨堤の光を又、人生の
き波濤の如く旋遊を致す、切舟船を筆す
夜に入らる

十六日

穂原製

雨、木林、臨、美、村、廿四、の、文、の、協、合、と、用、し、存、し、る、日、も、後、合
田、市、原、関、西、の、美、所、行、脚、と、あ、す、三、四、知、人、の、銀、舟、す
楠、瀬、日、年、一、端、し、三、黙、の、印、奏、刀、高、島、原
四、り、し、め、は、は、は、後、す、る、と、つ、き、三、三、一、と、あ、す、
あ、あ、る、後、は、ね、を、筆、す、長、津、口、靴、男、舟、舟、五
時、大、隈、合、致、の、隈、の、合、の、臨、也、市、島、成、一、と、し
極、志、今、親、約、者、わ、と、定、む、と、申、す、旅、後、者、を
四、下、崎、也、と、物、と、致、り、ま、あ、る

十七日

昨風、朝来旋風と兼す、伊原伊豆中橋葉帯
の朱漆栴檀を示せり、村山秋浦、似合り、浮割地
被り、河内祭(四月廿二日)の通陸列、市以
成(一返)出を是す、午後教果寺の國史展
覧海刑をえり、長洋、祝鉅也、簡す、書信
大洋、未書

十八日

昨武田連、中橋、伊豆、中橋、伊豆、中橋、伊豆、
贈り、中橋、伊豆、中橋、伊豆、中橋、伊豆、

中江川、又の赤列、葛山、赤列、葛山、赤列、葛山、
心の物と辨、三十五回、代、主、の、あ、一、二、三、不
月の書画を交付、日本回、古、竹、場、合、も、し、未、煤
平、凡、花、の、編、輪、古、河、三、折、其、法、日、純、多、の、旅
法、書、卷、の、全、の、隨、筆、と、と、と、流、し、と、と、す、六、吹
家、盜、竊、の、罹、る、元、を、元、の、元、を、元、の、元、を、元、の、元、を、
長井、公、塚、野、朝、倉、の、書、未、由、判、列、の、

十九日

昨朝来、赤凡花、を、頼、ま、ん、や、る、書、卷、の、寄、

二十一日

雨、平凡社、書齋の古物を郵送、関直彦
危馬の報に接す、金、日、生活をおめ、
公、及、来、来、大、中、
三、紙、押、
七、身、の、例、の、注、射、を、
と、世、界、性、来、社、に、寄、り、
り、後、
し、来、間、午、後、二、時、宇、都、宮、
種、原、表

二、臨、
創、
妻、
抄、九、冊、交、付、

二十二日

時、
禁、
二、三、
午、後、
史、

二十五日

時、村山社、海島、河野、楠、瀬、口、年、身、功、自、
心、の、烟、香、墨、を、好、く、徳、古、印、譜、六、冊、以、て、
京、野、奥、村、を、寄、り、寄、り、寄、り、寄、り、寄、り、寄、り、
雲、任、表、新、八、等、を、列、の、午、後、散、来、以、者、に、
物、を、贈、り、て、過、す、四、時、其、の、表、次、の、方、に、
今、の、日、人、と、今、す、内、子、病、状、衰、え、し、最、早、危、険、と、
を、脱、し、と、ん、と、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、

二十六日

種原製

時、書、卷、の、字、を、修、文、の、校、正、指、引、を、こ、の、ま、に、
ち、又、校、正、す、是、の、施、示、は、時、々、の、ま、に、
送、り、村、山、社、の、御、為、に、挿、入、す、前、十、五、日、
外、に、皇、四、日、田、内、子、に、月、末、家、用、を、交、付、
東京、相、の、寄、り、寄、り、寄、り、寄、り、寄、り、寄、り、
其、の、十、一、時、以、上、の、資、生、を、ま、た、り、て、
撮、影、し、ん、ん、盛、つ、る、方、々、の、表、の、方、々、
其、の、御、原、を、必、く、し、ら、う、と、ス、ル、フ、ト、
其、の、日、本、の、御、原、の、御、原、也、其、の、御、原、
を、必、く、し、ら、う、と、ス、ル、フ、ト、

飯七切了、飯後も兼す、五時飯訖、味
四申、杉刈来、定刻歸り、舟に乗りて
旅法、飯後、柿粥、くちま、こま、来、向

二十七日

時、八時十五分、前地、辰、上野、遊、狂、同、者、飯、城、合
等、も、未、也、飯、後、を、兼、す、飯、後、兼、た、舟、中、も、指
味、陽、波、を、好、む、上野、遊、狂、来、り、柿、其、毫、を、嚼
し、と、去、り、午後、井、に、基、成、来、り、舟、中、の、二、三、言、交
況、早、稲、田、中、子、ら、う、ま、ま、言、交、生、を、ま、ま、と、い、ふ

種原製

考、引、り、

二十八日

時、二、三、言、交、況、に、返、を、を、扱、又、龜、山、に、橋、代、錢、金
十七、日、自、井、油、宿、利、重、一、言、新、成、雄、の、行、成、り、
舟、中、の、兼、た、飯、後、も、兼、す、午後、上野、遊、狂、の、為、に
三、紙、押、立、毛、余、が、代、解、舟、中、の、以、來、崎、山、大、ら、
二、紙、と、宿、利、重、一、の、論、文、有、り、午後、後、讀、り、
子、に、伴、女、取、出、丸、口、に、お、と、婚、め、七、均、く、入、全、刻

醫の事論豊國火災の事。五月廿の湯物と報
未。日本漫遊史を讀む。

二十九日

日 元長節

内朝未遊記と兼て朝の入批証を頼
九故人の事をもの續紙遊安昌記と觀
時を殺す、上野此れを來書改口就在
秋、新河江の代物而社又慰靈祭の状況
報、神饌菓子と給ふ、午後市呂基香
口正理、早大入る、のき探抄、未。上野

榎原製

信郎の神遊記の事、是、午後内、今
夜、神の所の事、有、是、今、今
故、内、夜、事、を、進、懐、ま、初、事、也

三十日

而、朝、未、遊、記、と、兼、て、大、隈、侯、御、係、文、書、事、也
刑、行、う、つ、と、酒、を、式、法、行、う、と、寄、り、見、え、故、上、公
花、鳥、り、例、の、巨、射、と、施、す、森、野、美、松、本、海、利
子、補、給、二十、日、文、付、宿、利、重、一、と、其、若、在、田、采
事、印、と、寄、り、見、え、午後、在、田、平、五、の、傳、を

清い、旅の味、時代十日返り、電話掛納は
丙子病患、明油、二座二るの家、道々降り、百
六十と、今日主、次、迄、来、珍、年、一、井口、基、成、今
夜、病、後、初、め、を、日、比、谷、の、心、口、ア、ノ、演、笑、を、う、す、
つき、先、性、く、

〇五月

一日

明初来、車、東、朝、の、伝、病、と、成、し、故、中、の、
隨、筆、紙、巻、の、記、憶、の、の、批評、を、稿、す、而、
況、去、る、と、十、年、者、十、一、時、を、と、付、を、形、有、二、刊

橋原製

〇三福と酒からと、午後、旅、後、と、兼、し、
時、を、移、す、

二日

明初来、車、東、朝、の、伝、病、と、成、し、故、中、の、
隨、筆、紙、巻、の、記、憶、の、の、批評、を、稿、す、而、
況、去、る、と、十、年、者、十、一、時、を、と、付、を、形、有、二、刊
早大、同、書、館、の、印刷、洋、書、目、録、才、二、編
才、二、冊、H、I、P、の、来、同、書、館、の、准、お、お、の、附

一 龍泉も筆下す八木文塔も来簡三有を
らう白鷹三瓶も来簡も来。

五日

昨朝来日存尤も筆し龍法心境の字のす
名取夏司も山本先生の遺稿も字の也
来り、元衆御院守衛長宮城去為舟舟
山陽の書幅の鑑定も法不備通て題為す
十一時上野に赴き今日も開会場の報知物
文主信名實辰法分をも見る、今由府美術

榎原製

館也日本国者館場分も来書、和由為所
来書、名文、法を来書、小久江成二二間、亦
名利重二二二間と投す、高橋、外物物と贈
と去る

六日

日

昨、烟山も大なり、〇法〇夜〇夜〇就き自若
パンフレットも来簡も来。國民法も来、今由の
龍筆の字も来、需の字も来、丹、六、梅、平、来、由
字も、清川、茶山、陽の書幅も推し、来り、鑑定

七折小山西が死日前数日の疾を力りて金井鳥
河と考して其つれ一幅のちの珠とすまきよる
ある書卷に字のまき維新元勳の筆蹟と
是より一編を董心平後成る直に示はれ
に投すも夜お多岐に赴き睦合に睡りて飲
む前月睦合費予の負持分五十圓持満一
も飯持し道取費は後干の付分内子に交付
す

七日

晴國心以りて。いふすべき随筆子一編成る

棟原製

宮城長花其功頼鴨居の持指とを
の葉子と銘する降旗後ものすまの和
田爲生持子歌向、何のみ十一時先遊
右の物と銘ひ三編と酒飲りしゆく、持内
士行歌の今のもいふすまの

八日

晴、持満唐伯の計利る日本圖書館場合對
徳川頼貞控訴書作すつま、余を証人として
六月二日親談状其の古河三村し未書
隨筆一編筆心合部成る、おまの歌り

おむ人を移し来り、和の葉をともす者、直に後す
モ、ハッパンの舟の上にも、漢の宮に、茅を植へ、又
此の白葉、月、打花、雑多し、十部と定むる也
の并、来り、聞

九日

吹風、今朝の、東京朝日、予の執事、この、豊座
臨筆、後、成、五、葉、の、記、の、批、録、を、収、め、し、来、り、朝、日
に、投、す、へ、き、臨、筆、給、手、紙、を、草、す、し、十、時、印

様原製

別、人、の、地、の、重、後、今、に、臨、む、新、修、治、の、全、集、を、ハ
回、ア、ゼ、ン、ス、の、タイ、モ、ン、が、やく、馬、刺、し、配、本、一、行、成
り、来、り、朝、日、に、投、す、し、吉、田、秀、人、も、尾、に、遊、の
朝、の、漢、焼、一、尾、を、寄、り、て、す、る、モ、ハ、ッ、パ、ン、の、舟、の
上、を、漢、文、時、を、移、す、十、五、の、葉、を、ひ、寺、に、植、
て、大、き、ら、来、り、葉、の、三、回、に、心、を、草、す、ら、り、つ、き、し
大、き、ら、他、も、あ、る、由、利、利、の、五、時、目、置、雅
叙、園、の、回、者、彼、回、人、の、人、と、臨、む、汗、涙、が、皆
来、り

十日

晴風、今津吉田に遊也を為す。況上公苑より注
射を施す。随筆、東京湾の魚族一冊を著す。
今日も同方館大分開合らんとも缺席す。
午飯に麦酒を飲み、濱場へ鯛を飽かす。
午後お生に散策物を購て歩く。雑感を
筆し時を移し、六時上り、精養軒の園者
館主人より懇親会に臨む。中野欽弘の法要
に香を送る。

横原製

十一日

雨後霜つ、定例の大掃除といふ。雑感を著す。上
條盛隆、瀧田久次を来書。田中清石(板屋
来稿)は、昨夜半大出取部海家とて大ニ観
計出取部免のん等こと今月初めを成す。初
河濱の死骸を塩麴を搦り、穴をせしむる。モロハサ
この穴を土漬し、或は都分ノートと云ふ。又モリ
工場の人間場を「を漬し、種法類の伝承を心
とよめを整理して物事を入る。府税の徴収列
了。東京朝日津村来刊し、来也。

十二日

時、今朝武由事の爲に、應じ對紙押書
一時、松浦原伯の先公式に臨み、流田久流に後
す、江戸藩中、海をともむ、上條盛雄、耳振
来十七日、大隈鯨子一年、祭もこも、あつた
山、彦三郎、ゆき、ある内、秋利、文り、地を、海
と一二の稀觀者をも、ゆる、ゆ、中、中、欽、流、
ヨ、法、あ、う、茶、あ、子、利、目、画、故、若、名、を、し、力
ツ、ハ、子、バ、タ、を、之、り、を、あ、る、も、エ、ル、ハ、人、間
猫、後、う、あ、る、松、ね、を、茶、す、夜、来、の、あ、る

横原製

十三日

日

雨、朝、来、松、ね、を、茶、す、田、民、り、多、く、字、を、せ、
う、他、著、聲、う、詩、酒、今朝、の、同、紙、に、登、載、
業、旅、記、文、体、と、之、の、他、著、の、字、を、行、と、需、め
来、の、十、傳、家、一、冊、を、訪、持、谷、権、高、と、云
ふ、他、著、を、書、き、如、お、八、九、枚、書、き、来、ル、
か、ら、す、

十四日

時、風、他、著、上、待、谷、権、高、一、冊、文、体、記、入、字、あり、

も来書 柿淑尚の函を乞ふ、平凡記より
多行抄より四分十五回抄来、村山秋浦の属に
在り、勝以福神像物に割入冊子に懸す、
大改の授友鈴木茂雄より来、河且つ古稀の紀念冊
也、も乞ふ、

十七日

昨早朝飯後、とと下婢来り、白紙友疏を乞ふ、
政界往来別巻を余の授、有記、筆、眼、の二篇
を乞ふ、日本回を授、協分、とと来、膝、目、日、軍

四、廿二、五月四日、振、り、の、(志、日、原、) 雅、法、龍、法、
時、を、移、す、大、隈、進、子、一、年、祭、二、つ、き、三、時、ち、の、の、
大、隈、邸、に、接、す、山、宅、為、抄、し、是、小、波、及、祭、委、受、
し、も、来、書、の、

十八日

昨、此、を、新、河、に、利、来、の、鉢、植、牡丹、四、五、
花、を、乞、す、妖、麗、如、國、真、に、る、花、の、王、也、田、中、
清、石、身、ゆ、り、へ、き、書、送、を、論、す、早、福、田、を、報、し、寄、
か、へ、き、宿、を、乞、す、廿、七、日、園、也、今、の、書、本、内、大、隈、合、

鏡を引く。葛山素三本丸の香前を齋へし
二午後三時(早)の報に答ふと大隈令報の(遠)
憶(上)十二枚書き畢らう。四時安田若水次郎
と訪ふ。稀古破出雲の日記に終み喚ぶの書
巨多の庭とつ物志、鈴木茂雄、水島と答ふ

十九日

昨朝来号報に答ふへき稿を校心す。望月
軍のうららと来書。東京朝日と前日活論
と之をせり。函を二十日答へし来る。雅報を業

横濱

了。今井一印再功を報の名を異ふ。午後
八時。新令中。又の協会の創会をいらき。五細五
の去。素山主計。支那前日の海軍のつき一
時。三十分。こころ。海軍を報く。素山の日大
の校心也。

二十日

日

昨朝来号報を業す。坂上弘花と注射
を交す。中江家一と午後八時の眼
鏡鋪を伝中。眼鏡注文速近のレニ入る

具、眼鏡也。檢眼の結果、遠視十二分也。視力
也。丹吳、唐平、（？）、揮毫、老、剛、石、塚
三印、夏、川、静、江、等、来、云、上、頸、本、之、の
齒、牙、落、つ、獲、後、井、口、基、成、の、じ、ア、ノ、強、夫、
を、う、じ、大、七、聴、く。

二十一日

陰、内、子、者、病、後、今、日、を、三、十、日、を、経、こ、病、狀、順
調、右、手、七、通、々、利、く、曉、狀、七、落、く、一、日、毎、々、多、分
回復、を、又、の、朝、来、揮、毫、酒、詩、を、録、し、之、測

横原製

を、甚、く、立、川、の、休、居、任、外、を、カ、ジ、カ、を、贈、り、来、り、
預、金、百、圓、引、出、す、十、時、以、上、は、雨、引、る、四、氏、の
受、託、も、厚、福、料、六、圓、引、来、午、夕、時、に、酒、を、飲、む
酒、後、丹、吳、塚、来、志、書、の、之、を、来、り、和、田、美
書、を、来、書、川、村、清、雄、死、云

二十二日

小、雨、尚、降、り、空、の、ま、く、き、杓、形、保、二、名、中、執、筆、
徳、川、家、に、對、し、結、訴、手、件、一、関、し、三、十、一、日
午、後、大、橋、井、護、士、方、に、余、酒、人、と、し、七、生、延、ま、つ

き打合をうりきこふ決す、筆研に倦み所存に敬
策、之十二に喫飯し紀の回廊に遊をも終る
物、和田為吉に押直毛を託し、和言瓜袋
人の書出^{和言}利達、去るの羽笈日角に二の一寸
廿方(毫)宛迄俾の茶合を俵し、和言つぎ
記念に減鉢形法三杯俵えのきをも定む
来、和田に謝書をもるす、尾崎行雄の由代
借紙を讀む。

二十三日

陰札故録原行平福田子報、和言す
去る羽笈席に中、和言をり、和田為
吉にす、和言表を、和言和田押直毛の姓をも
托す、和言を付、和言の三福に、和言とゆふ
朝、和言出、和言の日本外交秘録も讀む、和言
後、和言を打、和言。

二十四日

時、和言外交秘録を讀む、和言と筆す、
十時銀座の目が子屋、和言を、和言の眼鏡

新想を讀む。

二十七日

白露出候紀念日

所、朝未四時半の外淋の起を讀む、宇尾命
の海也とも夫木村一印を尋ね、誕生二故葉上の
八月を、飯と仰る、伺書後二報に定り
す、まきと死没歩の才二福を草す、五郎
元帥重忠を仰る。

二十八日

晴、早報に定りす、心福を此の成る、秋の
葉

棟原製

し又四時半の新想を讀む、終に讀み、午後無
聊志ばく庭園に遊び、夕暮と掃ふ、夜未半

二十九日

所、早大在る生瀧波二休保古坊正利の
海を尋ね、朝の起を尋ね、余の字を尋ね
會于紙の漸金二十四日到来、山四河尾
末次、福を本配本、出候部印税五十二回
四十一支、飲ち、月未、家用四回、田内、文
件、金六十四、文行を、仕拂、秋葉始生

ニ物も嬉しい、大りぬ。こつり、あつす、村山、おのれよ
リ物も嬉しい、来る、午後、雷、降り、驟、雨、烈、し、及、町、花
雄、こゝ、弘、文、江、書、目、を、送、り、来、る、後、出、晚、的、的、に
去、り、や、あ、あ、お、仰、え、御、徳、望、信、音、に、随、録、夜、来、あ、あ

三十一日

時、七、時、あ、あ、え、仰、去、去、散、策、祇、楽、の、酒、飲、し
切、書、後、及、お、来、る、心、三、時、を、終、了、し、内、子、を、為、爲、果
日、目、を、初、め、て、入、浴、し、其、後、三、時、の、初、め、し、月、二、日
控、訴、院、へ、訴、入、し、し、余、尼、院、を、受、け、し、終、り、す、也

榎原製

又、あ、あ、の、事、状、を、え、油、心、で、持、去、る、為、深、徳、士、記
念、今、々、と、来、書

三十一日

時、今、朝、来、京、朝、り、余、の、客、を、給、予、紙、の、物
一、半、を、掲、ぐ、八、時、未、谷、地、を、去、り、朝、来、時、考、を
外、け、の、原、稿、を、考、き、統、々、し、脱、行、坂、上、弘、文、考、考、り
注、射、を、受、け、安、田、生、余、保、除、入、り、御、々、割、戻、を
二十、日、八、十、銭、利、来、し、龜、山、来、り、三、日、留、居、小、庭
幅、八、十、日、押、石、保、保、院、坊、投、露、の、為、め、新、物

を付のて来り、午後四時大樽減を消のて松浦
院、証人としおのり出延り打会とあり、畢つて松本去
一とて谷天福亭に飲む、此日伴中、安達山陽
の極と極く飲之を消ふ、

〇
六月

一日

昨、撫忠より、今日訪る、松本友合とあり、(高)の
あり、此夜置忘れたるを天福亭まで入り、行
き、克日付、古松、尾の古本市、一二、四吉と
購ひ、地を公花、酒飲して仰る、午後雷雨

棟原製

あり、鐘と賑あり、号、松、の字、杉の流、松、板、心、を
あり、**杉本**、去、右、一、二、一、尚、を、別、す、夜、未、小
雨

二日

昨、日本園者、松浦、協、人、と、お、徳、の、屋、家、の、松、浦
多、件、証、人、と、し、七、出、延、り、六、考、空、に、松、と
詢、へ、を、受、け、十、時、半、切、り、武、田、寺、の、中、に
あり、押、巻、を、信、頼、さん、器、品、を、受、け、
小、切、手、五、十二、回、余、快、金、と、し、松、浦、八、入、り、也

塩木村一節、未ゆ考、法多、今、法、法、り、原、於、
の、ま、ら、り、一、と、ま、ら、り、香、川、義、一、と、回、宮、改、正、
又、つ、ま、ら、り、書、今、夜、此、月、軍、中、に、招、え、ん、睦、
今日、人、と、驚、鳥、溪、の、志、何、原、に、飲、む、

五日

頃、今朝、八時、日、比、谷、に、於、て、東、郷、元、帥、の、回、葬、
を、行、ふ、本、村、一、節、に、見、八、十、一、と、未、書、平、
洋、金、三、十、一、と、麦、酒、を、賜、り、未、の、旋、舞、と、
筆、下、す、小、久、江、成、一、と、其、法、真、時、桂、次、中、と、

榎原製

三、代、の、石、五、十、年、佛、子、の、供、物、を、賜、り、未、の、不、
久、江、に、向、す、午、後、五、時、に、行、き、一、二、物、を、持、て、
向、く、切、書、後、今、行、執、著、し、井、口、基、成、と、妹、
可、ゆ、物、を、賜、り、又、別、お、持、つ、と、紀、生、に、改、め、ら、
る、と、あ、り、

六日

頃、本、書、一、と、未、書、宮、給、り、と、中、死、後、百、日、
書、一、と、宮、ま、へ、と、賜、り、未、の、平、洋、金、三、十、一、と、
揮、其、書、を、托、し、ま、ら、り、筆、仙、と、浴、衣、三、反、贈、入、り、

大石理國本誌其の桂次郎一箇と
す。前田晁許モウハサンのじエんじヤンと
讀み午時ヨミ出版部と近刊二冊既
五時ハミ改題と陸合と信也。

七日

昨余の字札と收め給後「書卷」列未
休議書が関大と申の信也到る。海を渡次
印より信也と武田信也の申上じ申次
物と給つとある。先と申家へ申す。午後

棟原製

讀書。四時安田長次郎方、掃者後書合
の向人合、臨むお目と申す。寶梅古鐫百印
一冊給ふと余の字札と收め給後信也
境し梅手。

八日

昨、園丁一人あり庭園の年入を尋す。予唯登美
夫より給す。申す。徳合、乾き又余の此中辭任
の件、ふこのき、内議す。旋給を著す。三田村
高島の捕物の話と讀む。午後揮毫。時

十一日

時、園下二人来り、朝来に依心境に投まふきし
系舟を兼修す、村山秋満より又法之志
し山湯の老僧の一面に是四若く平洋金
三ヶ武田中守に使し押書をも交付、石井
良三も来書、午後七時舟を兼修し一里
今関天彭も山花を寄て来り、

十二日

時、園下二人来り、朝来に報の返舟を兼

一、今日宿原四半同、次西九妙の見云、改り
を修り、舟の鑄金の古玩を二個貯り、五十
時、世園子一函利来、余の寄舟を扱め、
旅法合道、舟に旅別、六月二十二日如洋合の道
和利、昆田家の母をの埋骨をも其之回、満
し七程の土産をも寄て、法修後の寄
き、七枚貯り、午後七時舟を兼修し、
山口誠大守より、度井一の編書、係、先人権
三印の傳を寄て、夏目美現、来書

十三日

小雨、上條盛雄より来書、おのゝゝ読ませる由十
四日に出す。前報く、おのゝゝ福を授けたる今日
困り来り。又徳善、一命を奉じ、田中家
に相見せしと云ふ。丹子と云ふ也。果し、二日
梅三平の信を讀む。三時、丸印もゆめて
物も掃ふとゆふ。

十四日

晴、相来、大隈侯の詔と、越々稿の筆心を

榎原製

候、大隈と沙河校を今来、月七、用合、
田前侯、右路、右方、報、来、困、丁、二人、
久方、振、理、報、友、思、上、お、局、を、振、き、登、校、す、い
ま、箇、所、と、名、名、(因、す、か、智、四、豊、彦、の、組、合、四、家、論
の、海、浪、を、讀、む、山、口、武、次、郎、に、成、也、と、名、お、
五、時、有、由、河、の、山、お、梅、に、新、河、の、校、時、代、同
定、八、會、身、り、出、席、梅、大、牛、木、林、田、子、梅、の、平、原
と、飲、去、下、本、京、の、鈴、田、東、来、り、

十五日

町、園下二人来り、龜山より織塞士の画冊を贈
ふ。光を付めし物生に物を贈ひ以て宿に迎へり
三福に酒を分ちし由書後午睡、紙後直立、
香を贈ふ。内倉久寛に投函、お出中、度井
重次来り訪、文三斗の如白の野味を焼か
し庭前、裁す。庭の干入ら凡を湯に

十六日

而解来、池筆、大隈屋の旗と書し心す。天
王村土田赤大寺とし五斗の米の收穫につぎ

原原製

計録書列し、度井重次来り、午後奉祝
供ふ。堀川新の池君を法に、午後潤而利の
栞白の命を奉る。龍和と書す。夜す飯田橋
附近に坐坐あり

十七日

日

晴、朝来、原村と書す。森林脇田打合、
きこふ海、夏目義順、山端の方懐と書く。来
り、鑑らしを乞ひ、早大と書し、道刑の理工科
化、安らと書す。来り、午後神田河崎克の政

黨解法論是也と讀む。本林と云ふは、
字も也外、石原保又身も、未書、因丁二人甚口村
木平入、一、二、三、大、二、一人未、

十八日

晴、朝未、晴、傍、原、村、在、中、今、始、一、
今、田、録、一、未、稿、午、後、七、反、行、筆、心、没、頭、杖
父、宮、御、帰、朝

十九日

種原製

晴、朝、未、原、村、在、中、今、始、一、
未、五、十、公、他、淨、念、寺、住、職、同、越、一、の、き、長、物、道
六、も、未、書、筆、研、供、文、定、巨、伴、之、其、右、
散、策、三、福、飲、食、七、何、耳、海、南、結、光、の、
リ、又、原、村、を、心、の、録、田、村、造、の、為、抄、立、毫

二十日

雨、朝、未、原、村、筆、心、大、限、差、日、旅、連、日、筆、心
五、十、頁、成、り、未、脱、行、日、以、一、時、印、刷、今、
社、利、り、社、員、賞、と、其、山、日、印、刷、制、表、皇

太子殿下の近影州来、其の柱治中より来
前、本林象天の御名とあり、杉本表長一土田秀
太郎、前す、津念寺一件のつき五十公金
寺の寺主もきし、その書を雨を宗家、田代
す、龍溪と筆一、少湯、川、氣、賀、林、一、も、来
書龍溪本州、定、好、と、雲、の、あり

二十一日

与、夙、朝、来、五、好、と、筆、林、本、林、陽、合、好、つ、き、来
江、上、り、り、御、の、江、射、と、き、く、一、氣、賀、本、一、投、函

五
十
一
日

銀堂二二三の好と、地下、新、行、格、の、好
通、の、つき、試、葉、京、都、の、那、刺、家、不、本、晚、海、暖、暖
と、段、名、の、通、報、利、の、村、山、秋、海、の、物、を、贈、り
来、り、干、後、龍、溪、と、筆、す、新、江、御、人、の、御、名、人、の
も、招、待、状、来、り、

二十二日

昨、廿七日、地下、御、名、の、祝、意、の、招、き、と、京、東、合、會
殿、平、中、登、美、夫、其、諸、龍、溪、と、筆、す、元、宗、家、夫
人、の、年、好、今、に、招、き、行、く、和、田、高、を、宮、前、山、子

の國情志壯盛成、午後臥して能法を讀む、
永樂俱樂部に於ける如洋會と臨む、如洋席
上予の考りる、桑山子并に瀑布の意を乞ふ

二十三日

晴、高山房と國民百科辞典第二冊を考へて
未だ十時と口の信印創今比に於り、半季殊ま
編今の臨む、定款を改正し、六分の配申を以
て、法守後示段今と問き、田中早と大徳未と
お談及とる、予と決ま、予の二文、計り本三季

櫻原製

賞千回、五十八日三十二美也、文行本を以て
國情代三十日補入、凡月を以て、頗る、夏目
義順と未書、今夜示、桑山子并に瀑布の意を
協今の特種講演今を以て、臨海園の移民
并に、臨海園の移向、三、五、七、改、本、(理)會、有、以、
次、有、(生)駒、有、(卒)、(拓)務、者、(若)紀、(島)本、(依)各、
次、(入)本、(五)經、(内)浦、(造)石、(卒)務、(院)子、(の)講、(演)台
轉、(入)海、(濱)後、(映)善、(つ)こ、(海)濱、(園)も、(有)ら、(り)也、

二十四日

日

時、本喜一と申出、湯山の方大なりと申書、
月二日、柳橋に於て、松谷茂村、末の末戸侯
古河公之、魁字を召す、夏目義順、
末橋、法法心境の村上俊昭、夫、梅光と併し
て、波菜、松竹、と申す、物も、臥し、大田三郎
の禪体の習得と申す、森、術、と申す、松、
新、河、藤、田、茂、村、の、島、身、の、深、文、雨、

二十五日

雨、朝未、松、松、も、兼、す、横、志、一、所、と、申、書、

松原殿

出、田、秀、大、ら、い、と、申、書、
七、日、昭、金、も、未、り、平、海、金、三、り、と、申、書、
の、伝、教、と、申、書、
寺、一、件、の、き、家、家、の、事、務、員、清、正、と、申、書、
松、松、本、州、の、信、頼、員、木、屋、義、二、と、申、書、
稿、も、交、付、し、十、一、時、已、三、時、外、の、事、も、申、書、
し、受、生、を、に、飲、し、七、日、の、内、居、久、寛、松、本、集、
一、三、河、公、之、終、日、細、雨、一、飛、々、漸、中、梅、向、幼、
こ、入、り、書、格、大、洋、と、申、書、

二十七日

晴、新沼に人令と投す。き一文と筆也。片
山科大末極、早大の赤葉生を成田の中を授也
今御道海に伝ふ、文一画蜀山人詞古の後、鳥
記一卷と贈ふ。亀山と古色代、二十日佛行
内子に九右、廿十日交付(高田三、合、合、年)午
後、文行堂と訪ふ。味若、村花、本二、一と
購ひ、平舟、佛入、難録と筆、七時も移す、多
文の端、今と米、田、綿、絲、研究、家、一、行、を、迎、へ、し
講演の令、あ、り、支、障、あ、り、し、臨、す、り、す

積原製

二十七日

晴、田原湖、茶、席、あり、(死去、経、ぬ、と、筆、下、す、
新、沼、市、役、所、と、新、沼、市、史、(上、卷)、を、
と、り、又、去、原、義、三、行、と、旋、法、現、實、三、行、
贈、り、来、り、平、洋、金、三、行、の、為、十、握、の、扇、子
押、す、毛、高、原、の、庫、田、中、と、来、書、其、の、書、二
書、可、成、一、時、に、駢、布、去、来、柳、竹、二、書、美、術
今、も、耳、書、勢、助、と、り、ん、こ、と、一、安、め、し、ま、る、
宗、家、と、り、ん、月、の、自、裁、の、ソ、ロ、ソ、を、贈、り、今、迄、地
古、城、の、家、と、り、ん、松、木、と、り、ん、行、か、り、松、木、と、り、ん、一、と

不忠に、是病事に相成り、石川流宿の六軒を
とれし、信長所へも、

二十八日

晴、内務湖南邊より吊城を遣はす、江口果一
と未商、金弓田内より交付、龜山に古書
代十五、山拂、先を伴うて出陣おぼしむ、物を
贈ひ、吹雪に到り、上野、信長、冬、冬、冬、冬、冬、
冬、氣温、正午、八十五、午後、三時、三時、三時、三時、

二十九日

晴、朝来、予々々々、血、物、を、物、を、物、を、物、を、
と、新、宿、の、物、を、贈、ひ、三、幅、の、酒、合、の、物、を、
午、睡、光、車、持、直、毛、又、旅、書、を、讀、む、

三十日

晴、雨、降、是、後、大、雨、と、梅、城、を、寄、り、て、米、の、宗、家、
と、マ、ロ、ン、教、殿、別、表、宇、尾、の、深、を、未、書、先、昆、
田、次、吹、を、派、し、午、夜、お、生、に、到、り、物、を、贈、り、し、物、
と、物、本、を、一、と、未、書、夜、に、お、る、ま、は、し、勤、堂、

海東匡素代ころの院八十回書所ありと十
田園丁二十回書素代七十五回田舎代八
十回月未動をころの書也

〇七月

一日

市、森脇美術身治二十回交付、能治、文体、并々
平凡、花より来書、昂若根、行く、十時、出、出
向木倉の諸陣列をえり、列品中、名古、倉、空

横原製

けりぬき、紙巻、菓子鉢を懸山、伊東屋
と紙巻、文二庫を海い来り、名家、自、集、本
を納む、函、数、二十、回、十、後、後、後、後、を、集、し
夕、刻、筆、を、関、く、

二日

雨、山、の、法、化、身、の、後、後、後、後、の、配、本、を、受、く、及
り、采、一、身、の、功、を、寛、松、本、の、術、野、々、松、谷、夜
村、々、々、小、子、川、隆、是、の、文、書、を、寄、て、集、る、余
加、字、の、小、物、屋、後、盾、(二)と、取、め、り、書、後、を

振別、旅泊を著す、坂上弘光の来り、注射を
施す所の如し、午後四五幡揮、一毫、丹兵協采
より、夜崎山刀大ら、に招えん、河入と代
に柳橋の田中家に、飲む、松谷茂樹と、酒を
をます、早稲根と、酒を、新は、為人、今と
市と、牛込支那の、願河と、する、推考、与、我、列、の

三日

時、困了、一人、来り、反、河、世、宗、来、に、押、是、を、交、貨、
坂、に、献、ま、後、田、貞、前、身、流、跡、も、長、谷、川、成、也

横原

身、流、高、島、内、閣、能、群、職、を、皇、山、石、田、等、と、其、
中、一、時、教、果、不、日、本、橋、の、一、亭、に、酒、飲、し、也、
物、と、味、外、漢、書

四日

時、二三、旅行、を、振、す、四、五、の、旅、往、を、執、行、
し、午後、旅、泊、を、著、す、三、田、啓、次、大、将、内、閣、に、
俄、の、大、命、を、拜、す、春、陽、を、も、る、行、の、後、正、指、来、
る、後、正、し、と、直、こ、る、也

廿日

晴、七日、薄曇、二河、新、乃、の、旅、館、へ、一、河、を、投、
す、翌、日、報、答、の、校、正、摺、を、投、し、て、送、
す、十一、時、迄、別、摺、物、館、と、判、り、向、上、人、の、事、
務、を、見、る、午、後、同、評、議、員、合、の、臨、会、回、中、
大、号、係、者、と、過、般、の、活、印、刷、合、紙、の、評、決、
に、基、き、お、扶、役、と、ん、こ、と、を、要、求、し、其、派、
派、を、得、冊、長、尺、二、四、點、狂、子、物、の、後、と、
ぬ、ぬ、り、依、後、り、の、筋、要、利、来、予、の、隨、筆、と、ぬ、
り、心、境、能、依、極、刊、入、極、め、き、進、去、日、三、十、

横原製

日、と、肺、尖、り、七、病、狀、と、も、聽、く、余、り、思、を、
を、認、り、り、十、山、安、無、衛、地、郵、通、無、所、父、子、
契、約、の、歎、末、一、書、無、所、自、記、四、種、物、本、
出、来、上、甲、點、狂、と、寄、り、來、り、

廿一日

晴、朝、来、る、若、熱、甚、し、き、と、受、ふ、其、美、濃、歩、の、
稿、を、投、し、る、數、と、寄、り、來、り、
り、つ、と、先、を、傳、へ、お、け、し、物、を、後、に、お、け、し、
り、酒、飯、し、夜、十、時、先、を、傳、へ、お、け、し、

二州、一行あり田金子部、望一吉田秀人、政
口、献吉号也。直子、寝巻に入。

七日

晴、七時三十分、江戸に着、長正野を、廣井堂
次郎、大川上法、麻等、人令し、江戸野を
五七の江戸、板友の出也、出法、このよ、令す
江戸の、板友、偶、伏見、美殿下、江戸、在、中、
速、雷、も、高、よ、の、西、大、畑、の、別、荘、入、り、朝
な、と、喫、し、其、の、地、花、の、畫、帖、を、見、し、午、後、

中、敷、の、江戸、板友、と、此、花、共、三、一、午、後、河
部、金子、の、令、江戸、野、を、板友、に、七、海、濱、一、時
已、喜、似、下、の、御、宗、つ、き、薩、田、花、板友、に、板友、に、
高、橋、院、二、也、を、訪、ひ、入、五、十、時、の、板友、を、母
を、訪、ひ、入、別、行、形、事、に、板友、大、令、と、い、く、
才、令、令、九、十、名、空、人、美、家、令、法、五、六、時、の、板友、と
銀、考、院、に、轉、つ、の、板友、を、訪、ひ、入、五、十、時、の、
中、から、先、才、領、保、心、信、廣、井、堂、次、郎、大、令、
寺、其、法、也、其、法、ハ、ム、を、訪、ひ、入、五、十、時、の、
内、宗

展墓十前田へ、白勢景元、子孫遊し
高松次子、米井宇、米井と物も
七月、白勢去、後松井船崎等三四
友未、紙を展へて校友、嘯、存、揮毫
と嬉む、午時酒を命、共、飲み、酒次
又數幅揮毫、三時迄十七八幅成り、尚十
幅を幾やと漸やく傳ふ、恒東後揮毫
と約し、四時、松井外三四の校友、伝ふ
笑と死、鳥圖、利り、余、五時、白勢
難波、利、米、振、え、高松、鏡、沈、共、

御奈尾、利り、新築の壁、と飲む九
時、辭、白、三、十、五、分、の、汽、車、に、投、す、校、友、
五、七、又、送、り、の、考、驛、頭、と、外、の、七、必、引、
二十日、新、茹、と、あ、ら、ぬ、七、家、昔、に、持、物、

十日

今朝六時、上、四、着、立、て、物、也、酒、を
或、次、へ、奥、村、持、去、と、未、書、志、の、分、
に、托、し、石、川、代、為、十、幅、成、り、美、本、野、
湯、葵、面、赤、十、幅、既、本、在、中、四、時、替、全、
部、成、り、各、所、中、元、贈、品、相、贈、り、

不立中市島三三三とあも客こ一あり、味もよ
り製の薄焼を贈る事なき午後旅の酒を著
し時を移す、沙翁全集才十回ハシリ
六廿二冊既本、井口基成と白鷹を贈り
来り、定枕祖歌二案列二冊共協平田者三付
才書

十五日

砂、朝来花、漸取に投るべき、右村紅島山人も著
き、如ち、右家あるあり兄の考の押巻をもととし
支那とて求めたり、印一歌と贈り、午後歌集

横原製

丸じり、画、歌、例と贈り、別方うらむ、細書
の午後、右村歌、例と著し、又、熱海生田七
部とて、坊内、右、遠の病、著、の注、こも報、し、来り
漸やく、田、後、向、と、ま、あ、り、す、い、い、夜、未、知、あり

十五日

雨、朝、未、紅、島、少、人、の、行、と、著、き、つ、く、市、島、範、三
鈴木昌雄、同、付、才、功、福、吟、の、稀、徳、歌、も、著、
味、助、か、り、も、も、云、り、も、金、刻、十、回、並、み、今、評、ハ
一、と、書、簡、を、寄、り、も、り、且、つ、酒、を、寄、り、も、り、

十時向御く収まり初とし冷氣と云ふ。五十峰嶺
野々として種々の野菜類を定めて来り。北陸地方
大出所の散り、新川の舟崎仁に枝筒又余の
雅印三顆小こも毎時く郵送し余の押書に
捺せしめん為也。五十峰嶺の物と贈り、中井邦
三助も来書

十三日

兩羽来、蕪術及び空ろくまき、紅馬山人の原稿
を授る、偶々も谷の蔵也、舟崎仁のまきと交付す

横原製

今居の湖下も物押書と云ふ、北陸の生田七介
に問す、新河柄書より柳長正上梁に問し且家
花の印書と郵送す、冷氣甚しく松の嶺と雖
亦、北陸の空の報新河柄と満り、空家と十
五日午後陸志八つをいらくる(知あり)

十四日

梅天満く、前日未だ解頭、同官の字と関太
印と云ふ、空ろくまき、日本国者館場合と書
今つあ始つとこい月書の、改上私虎すもう注射と

施し七巻、新書と物を購ひ三編二巻、
後撰、毫、熱河、
五州、村口書屋十三回、五十、表、拂、
油、

以下別巻

